音の輪・音の和

一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

法人化特別号 2013年3月発行 No.3

これからに期待されること

一般社団法人
兵庫県音楽療法士会
理事長
松 﨑 聡 子

2012年4月に会の代表となり、瞬く間に季節が移ろいでいくように感じている今日この頃です。2003年発会当時に、企画部長として2年間運営に携わらせて頂きましたが、再び運営に携わることになるとは思いもよりませんでした。しかし、そのようなことにとまどいを感じている間もなく、次々に予定されている行事や案件に翻弄されていきました。6月30日には『音・きずなコンサート』また10月8日には『法人化記念シンポジウム』など、大きな行事もあり、短い期間中に周囲の方や会員各位の協力を得ながら邁進してまいりました。この場をお借りして感謝申し上げます。まだまだ手探りが続きますが、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、兵庫県音楽療法士会は、2012年8月1日より一般社団法人となりました。これによって今までの任意団体とは違う「顔」を持った団体となりました。なぜなら法人格を持つということは社会的な権利を得ると同時に、大きな責任を伴う団体となることであり、これまで以上に社会から注目されることになるからです。これは、音楽療法の普及や発展につながるので大変喜ばしいことではありますが、その反面、専門職としての仕事の質を問われ我々一人ひとりに責任が生じます。今までと同じことをしていても、実は背負っているものが全く違うのであるということを肝に銘じ、音楽療法士としての質の向上と、さらなる研鑽を積んでいきたいと思います。また法人化を機に、これまでの運営の見直すべきことや改革すべきことを整理し、次代へと繋いでいくことが私を含め今期理事の仕事であると考えます。発会から10年以上の時を経た今、辿ってきた道を振り返り、足元を見つめ直し、そして未来へ向かって確かな歩みを進める時期が来たのだと感じております。

音楽療法という仕事に情熱を持ち、真摯に取り組み、誇りを持ちながら、凛としていて、しなやかでかつ豊かでありたい。そして、兵庫県音楽療法士会は、そのような専門職の集団でありたいと心から願います。これからも社会からのニーズと期待に応えるべく努力して参りたいと思います。

もくじ

- これからに期待されること……1
- 私たちの法人化……2
- 法人化記念シンポジウム……3
- 活動一覧……4・5
- あなたの町のセラピスト……6
- つながるひろがる……7
- 音楽療法定着促進事業について……7
- 楽器紹介&音楽の豆知識／編集後記……8

私たちの法人化

兵庫県音楽療法士会副理事長（法人化担当）
宮　本　裕　美

当会は、現在の我が国における諸団体の法人化推進の動きを背景に、音楽療法のより一層の周知・普及を目指すと共に、更なる公正な団体運営を継続して行い、且つ団体としての社会的信用を得ることを目的に法人格を取得し、昨年8月1日より「一般社団法人兵庫県音楽療法士会」となりました。これも、今日まで私たち兵庫県音楽療法士を、団体として、また個人として見守り支えて下さった多くの皆様の御厚情の賜物と深く感謝申し上げております。今後は会員個々が当会の法人としての社会的立場を認識しつつ、人との出会いや繋がりに感謝の気持ちをもって日々の音楽療法活動を行い、その集合体として、周囲の皆様からのご指導・ご協力を宝とし、堅実で誠実な時を積み重ねて参りたいと存じます。

一般社団法人への道のり

法人化への道のりは、発会当初から始まっていました。当時の運営委員会は、懸命に会の土台作りを行っていました。その日々の中で「共に学び、共に認定を受けたのだから、兵庫県音楽療法士の横の繋がりを持ち続けなさい」と、会の立ち上げをご助言下さり、顧問にご就任下さった山口陽雄先生にも様々なご指導を受けていました。ある日、堀早苗初代会長と事務局長であった私が運営上の細かい事柄についてご助言を頂きに伺った時に、「貴方たちは、こういう事の一つ一つについて将来の法人化を見据えて考えていますか？私は10年後を目処に社団法人になるべきだと思う。そして、きちんと社会に認めて貰えるようにならないと、次なる時は刻めない。音楽療法の普及発展も道半ばのままになってしまう」というご指導を頂きました。会設立の諸事におわれていた私は「まるで雲を掴むようなお話だ」と驚き戸惑っていましたが、その帰り道、堀初代会長が「いま何をどうしていいか分からないけれど、山口先生のおっしゃる意味は理解できます。ご指導のように法人化は行うものと考えて、今はまず会の活動を軌道に乗せるために一歩ずつ進みましょう。そうしていれば、その時々に少しずつ何かが見えて来るでしょう。」と言われた清廉な眼差しは、山口先生のご指導と共に、今も忘れえぬ私の宝物であり、法人化担当者として事を進める上での大きな原動力となりました。そして、当会の運営の中に、確実に“法人化”という目標が置かれるようになりました。

法人化への思いは引き継がれ、北山紀子前会長は、法人化担当として副会長を1名増員、法人化のため開かれた会であるように広報部を新設し、当広報誌を創刊。「時の必然は必ず来るし、何よりも会員が総意でもって行う法人化でなければと思うのです」と常々言われ、会員が理解を深めることに重点を置いた法人化の動きを展開し、平成22年度定期総会で法人化を提案、多くの意見が出された後、継続審議となりました。これを受けて平成23年4月に法人化検討準備委員会が発足、法人化について多角的に検討を行うことになりました。そして、当会の現状、会及び会員にとっての利益・不利益を勘案し検討を重ね「一般社団法人を取得する」という結論に至りました。この委員会案を会員とともに更に議論するために、同年度11月～3月の間に3回の法人化勉強会を開催しました。そして、遂に平成23年度定期総会において一般社団法人取得が可決されました。この総会時に、北山前会長の任期満了に伴い、松﨑新会長（現理事長）が選出され、法人化のバトンが渡されました。

平成24年度に入り、法人化準備委員会では、法人運営の根幹となる定款の作成を行い、同年7月14日臨時総会で可決されました。その後、諸手続きを行い同年8月1日に正式に法人となりました。法人としての第一歩である記念行事は、広く皆様と音楽療法について考える機会でありたいと思い、10月8日に「法人化記念シンポジウム」を開催しました。これをもって法人化準備委員会は解散、法人化に伴う諸事務手続きを新理事会で進めつつ現在に至っています。

［法人化記念式典にて御来賓の皆様と共に］

後列左から
中瀬憲一兵庫県自治研修所長、大串事務局長、阿部恩氏、太田稔明兵庫県健康福祉部長、井戸知事、貝原前知事、山口紅子氏、有本雅子氏、山口直子氏
前列:志賀副理事長、松﨑理事長、堀初代会長、山口陽雄氏、北山前会長、宮本副理事長

今後、一般社団法人として

法人化担当として、まず着手したのは「法人とは何ぞや」ということを自分なりに理解することでした。そうすると、まだ咀嚼しきれないうちから、私たちが「法人になることの意義」や「法人となった後の使命」を考えることは、私たち自身の専門職としての価値を見つめることに他ならないのでは、と思うようになりました。そして、平成22年9月に神戸で開催された「日本音楽療法学会第10回学術大会」への会を挙げての協力と、同会における自主シンポジウム「被災・被害と音楽～災害時における音楽の果たす役割～」の開催、その約半年後に発生した東日本大震災の支援活動、10周年記念式典と記念誌の発行や、日々の活動をコツコツと重ねるうちに、当会を取り巻く環境や周囲からのニーズが、明らかに発会当初とは異なって来ました。今後、一般社団法人として当会の歩むべき新たな道がおのずと社会に向かって行く。その社会において信頼を得るためには法人であることが大きな意味を持つ。まさに時の必然だと思う今日この頃です。私は日々の音楽療法士としての仕事の中で、音楽療法は「重ねる」ことではないかと思うようになりました。一緒に時を重ねる。音を重ねる。手を重ねる。心を重ねる。法人となったいま、あの日に山口顧問が言われた“次の時”を、今度は専門職としての価値を皆で考えつつ、重ねて行きたいと思います。

法人化記念シンポジウム

音楽療法と行政 ～歩みとこれから～

爽やかな秋晴れの10月8日（月・祝）兵庫県福祉センターにおいて開催されました。

松﨑理事長の挨拶に始まり、井戸敏三兵庫県知事より「音楽療法士として社会的地位を自覚し、益々活発に活動を展開してほしい。」とのご祝辞と御歌をいただきました。

井戸知事　短歌

貝原俊民氏（ひょうご震災記念21世紀研究機構特別顧問）をはじめとするご来賓の方々のご紹介に続き、第１回山口陽雄賞授与式が行われました。この賞は、山口陽雄氏（医療法人社団向陽会向陽病院理事長、当会顧問）が、音楽療法の普及発展を目的に私財で設けられたものです。審査委員長の阿部恩氏（頌栄短期大学学長）による受賞者発表が行われ、堀早苗初代会長に授与され「当会の立ち上げから10年の歩みに携わり、音楽療法に関わって20年。現場での学びが支え。これからも音楽療法で関わる方に真摯に向き合い、心に寄り添っていきたい。」と述べられました。

受賞の堀早苗氏

山口陽雄氏への感謝状贈呈

これにつづき、当会の生みの親・育ての親でもある山口氏に感謝状を贈呈し、『おめでとう』（山口氏作曲）を会場の皆さんと合唱しました。

シンポジウムでは、当会の歩みを振り返りつつ音楽療法と行政のコラボレーションやこれからの課題について、北山紀子前会長の進行で、話題提供と討論が行われました。

音楽療法定着促進事業の井上恭子コーディネーターによる基調報告、5名の話題提供者と指定討論者の発表があり、ディスカッションでは会場参加者や兵庫県職員の方々からも貴重なご意見をいただき、今後の音楽療法の普及と発展につながる有意義なシンポジウムとなりました。

シンポジウムでの話題提供

ディスカッション中の鈴木暁子氏と司馬良一氏

【話題提供者】
司馬良一氏
（総合リハビリテーションセンター特命参事）
大西久美氏（加古川市健康課担当係長）
栗山佐有里氏
（加古川市地域包括支援センター看護師）
渡邊幸子氏、継岩典子氏（兵庫県音楽療法士会）
【指定討論者】
鈴木暁子氏（日本音楽療法学会近畿支部長）

平成24年度事業一覧

当会では音楽療法の普及と発展を通じて社会福祉の向上を目指し、様々な事業を行っています。

研修会・事例研究会事業

4月・研修会

岡嵜　順子 氏（臨床心理士・交流分析士）
講義「傷ついた方、病気の方への適切な回復支援　音楽の活用」

5月・公開研修会＊

生野　里花 氏（東海大学講師・米国音楽療法協会及び日本音楽療法学会認定音楽療法士）
講義「21世紀を生きる音楽療法臨床家として大切にしたいこと」
―ブルシア『音楽療法を定義する』訳出から11年を経て―

6月・研修会

会員によるセッションのアイディア紹介
「セッションで使えるアイディア　その2」

7月・事例研究会

松井　紀和 氏（日本臨床心理研究所所長）
講義「BED―MUSICの実際」―症例と体験を通して
及び事例研究

8月・公開研修会＊

山根　寛 氏（京都大学大学院医学研究科教授・作業療法士）
講義「音楽を用いる療法の適応と対象」

9月・事例研究会

北本　福美 氏（金沢医科大学精神神経学科講師・臨床心理士）
講義「音楽療法士の耳を鍛える」及び事例研究

10月・公開研修会＊

二俣　泉 氏（東邦音楽大学准教授・音楽療法士）
講義「音楽・健康・スピリチュアリティ」―キリスト教と音楽療法の視点―

11月・地区研修会

A地区「セッションにおけるアイディア紹介」　B地区「セッション情報交換会」
C地区「日々の実践からお互い学ぼう!」　D地区「ギター基礎講座」

12月・事例研究会

後藤　浩子 氏（大阪音楽大学講師・臨床心理士・音楽療法士）
講義「音楽でコミュニケーションをとるということについて」
及び事例研究

1月・研修会

阿比留睦美 氏（町家「人と生活研究所　音楽と植物と…」代表・米国音楽療法協会及び日本音楽療法学会認定音楽療法士）
講義「神経疾患に対する音楽療法活用法について」
―NMTの有用性と留意点　研究と臨床の両側面から―

2月・事例研究会

鈴木　暁子 氏（東加古川病院音楽療法士・大阪保健医療大学講師・臨床心理士）
講義「コーチングのコミュニケーションスキルを学ぶ」及び事例研究

3月・公開研修会＊

近藤　清彦 氏（公立八鹿病院副院長・脳神経内科部長）
講義「神経難病の理解と音楽療法」

＊公開研修会は日本音楽療法学会の認定番号を取得する予定です。
なお、開催の告知は当会ホームページでご案内しております。
（ホームページのURLは最終ページに掲載しております。）

東日本大震災復興支援事業

●音・きずなコンサート

6月30日、兵庫県公館において、東日本大震災復興支援の一環として、兵庫県との共催でコンサートを開催し、雨の中162名の参加がありました。

金澤副知事、松﨑理事長の挨拶の後、会場が薄暗くなり森の妖精を装った会員が色々な民族楽器を奏でながら入場し会場は森をイメージした音に包まれました。やがて舞台が明るくなり、ヘルマンハープとギターで『ジュピター』が演奏され、その後、演奏者が楽器を持って参加者の傍に行くと戸惑いながらもそっと触れて、笑顔が見られました。続いて、当会の山口陽雄顧問作曲の『風よはこんで』をコーラスグループが歌い、会場に爽やかな風が通り抜けていきました。

後半には参加者も加わり、即興で声のハーモニーを楽しんだ後、サンバチームによる『風になりたい』の軽快なリズムに乗り、参加者全員が色とりどりのスカーフを振ると、会場は一面のお花畑のようになり笑顔が溢れました。

東北出身の井上会員による東日本の復興への願いを込めたメッセージの後、会員全員で『しあわせ運べるように』を歌うと、参加者からも自然と声が出て、熱い思いが会場全体に満ちていきました。次いでフィンガーシンバルなどを持った会員が「一緒にならそうよ～♪」と歌いながら会場を巡ると、あちらこちらで音のバトンタッチ、人と人とのきずなが広がったように感じられました。

参加者からは「被災地のパパと離ればなれで子どもにかわいそうな思いをさせています。こういう音楽を聴くと、親子ともども癒されます。」などの感想が寄せられました。

サンバのリズムでわき上がる会場

●音のかけ橋コンサート

7月28日、阪急岡本駅近くのレストラン「シェ・ドンク」で暮らしサポート隊と当会の共催により開催されました。これは、昨年11月に木口財団の元気アップ賞受賞で得た助成金によって実現したものです。暮らしサポート隊は、避難者の生活や心のサポートを主な目的に活動されている団体です。今回は、音楽による癒しと楽しいひとときをお過ごしいただけるように考えたプログラムに、おいしいお茶のサービスも添えられて、おしゃれな午後の茶話会のようになりました。

トーンチャイムの演奏

猛暑にもかかわらずご参加下さった皆様は、まず汗が引くまで静かにお互いの近況などをお話しされていました。お子様は、会場内に設けられたお遊びコーナーで、当会会員を含む託児スタッフと元気に遊びました。そして、暮らしサポート隊石東直子代表のご挨拶でコンサートが始まり、トーンチャイム演奏、二重唱やピアノ連弾、そしてご参加の皆様にも東北民謡などでご一緒に楽器を演奏していただくなど、限られた時間の中、沢山の調べをお楽しみいただきました。童謡や誰もが口ずさめる歌謡曲などを選曲し、皆様と共に創り上げるコンサートの中で、ご自由に歌われたり、笑顔や、時には涙されていたことがとても心に残りました。当会としても益々このような活動を通して、より多くの皆様に音楽療法にふれていただきたいと思う一日になりました。

●被災地訪問　　志賀　ミサ（副理事長兼倫理部長）

今年度も兵庫県からの補助を受けて、9月と10月の2回にわたり宮城県石巻市へ訪問しました。

訪問先を決める際に篠山市社会福祉協議会様にご協力頂き、又運転ボランティアの方による沢山の楽器運搬など、多くの方のご厚意に支えられて、無事に終えることが出来ました事を心より感謝致しております。

今回は仮設住宅、障害者施設の幼児と成人（通所・入所）そして保育園でセッションを行いました。小規模な仮設住宅を支援しているNPOの方から、近隣住民と仮設住民とのコミュニケーションを取りたいとの希望で、少人数でしたが近隣からのご参加がありました。大規模な仮設住宅では仲間意識を持って助け合っておられました。そして、私たちが持参したお菓子の空き缶を「花瓶にしたいから欲しい」と言われた方もあり、心のゆとりを少し取り戻された様に感じました。

音楽療法についてご存じない方がほとんどでしたが、セッションを進めるうちに、皆様の楽しそうな表情や歌声、楽器を演奏する様子をご覧になった施設の職員さんがその変化に驚かれ、「楽器演奏もいいですね。皆様あんなに楽しそうに演奏されて。本当に有難うございました。」「何をしても元気のなかった方が急に立ち上がり、踊っていらしたので驚きました。」などのご感想をお話下さいました。帰り際に「音楽療法ってすごいです。もういらっしゃる予定はないのですよね。」と残念そうに言われたので、「また来ます」と言いたい気持ちを抑えて帰ってきました。

支援の在り方について持ち帰った課題もありますが、訪問させて頂いた5人は、とても深い経験や出会いに感謝致しております。

音楽療法普及事業

●神戸ハーバーライオンズクラブ主催　第4回ハートフルコンサート

11月25日、兵庫県中央労働センター大ホールで、障がいのある方々を対象に開催されました。今回のハートフルコンサートのテーマは“この指とまれ”、一人ひとりが集まり一つになり、皆で音楽を感じよう、奏でよう、楽しもうと、演奏者とお客様が一体となるようなコンサートを企画しました。

ブルースのリズムで格好よくダンス

腰振りダンス、三線伴奏による『島唄』の合唱、手作りのペットボトルマラカスによる合奏、ツリーチャイムやトーンチャイムの楽器体験、そしてコンサートの締めくくりは『まあるいいのち』の大合唱でした。100名を超える参加者の元気な歌声が、会場の外まで響き渡っていました。また、合奏に使用したマラカスはコンサートの記念にお持ち帰りいただきました。

主催者からは「最初から最後まで音楽が途絶えず、とても楽しかった。三線の響きや楽器体験などは珍しく、皆様とても喜んでおられました。」とのご感想をいただきました。

●神戸介護老人保健施設協会主催「訪問コンサート」

実施期間・H24年9月～H25年2月　訪問施設数・17施設

あなたの町のセラピスト

セラピスト　渡邊　幸子 さん（神戸市垂水区在住）

「この人といると何か楽しいことが起こりそう！」と期待してしまう包容力とユーモア溢れる療法士さんです。穏やかな中にも仕事への厳しさを持っているところが魅力です。誰もが渡邊さんの笑顔に癒されます。

♪音楽療法との出会い

震災前、地域で独居高齢者の給食会を定期的に訪問し歌のコンサートをしていました。鑑賞だけでなく、一緒に歌ったり、身体を動かしたり、楽器を鳴らすことで、お年寄りがいきいきとした表情になられるのを実感しました。その頃、兵庫県音楽療法士養成講座の募集が始まり専門的に勉強したいと思い応募したのがきっかけです。当時は、「音楽療法」への認知が低く「療法」として施設や対象者の理解を得るのは大変な時代でした。

♪音楽療法歴

1998年より介護老人保健施設において実践を始めました。他、障害者家庭教育学級、重症心身障害者小規模作業所、リハビリ病院、児童自主グループ、高齢者デイサービス、精神科病院などで実践しています。

♪15年間の経験から

幅広い年代と様々な疾患や障害を抱えている方々に出逢いました。重度の意識障害，認知症，自閉症などの方々にとって非言語コミュニケーションが可能な音楽は偉大な力を発揮し、発達障害の子どもには音楽の持つ規則性が受け入れられやすく発達支援の大きな担い手になっています。様々な目的に向かう対象者のニーズに対応できる力量が求められると思います。

♪児童を対象に実践「ミュージックヴィレッジQOL」主宰

子どもの個性を大切にしながら可能性を引き出していけるよう援助しています。「小さな変化は大きな1歩！」親御さんと一緒に小さな変化を見つけては喜びを共にします。同世代の仲間づくりや交流も大切にしています。<バンド活動>ギター、ベースギター、キーボード、グロッケン、ドラムなど、それぞれが得意な楽器を担当しバンド活動をしています。コンサートに向け「魔女の宅急便メドレー」「ブルース」を練習中（写真）。お互いの音を聴き合い、声を掛け合い、音を合わせ、息が合った時は最高です！

セラピスト　谷林　恵子 さん（美方郡香美町在住）

兵庫県の最北端、香住の第一号兵庫県音楽療法士として認定された谷林恵子さん。「香住は以前漁港町としてにぎわっていましたが、最近は漁獲高も減っています。でも新鮮な魚の種類で季節を感じることのできる街です。」と言われます。そんな香住で地元に根付いた音楽療法士として毎日奮闘されています。パワフルで明るい人柄が、対象者の皆さんをくぎ付けにしています。

♪音楽療法に出会ったきっかけ

平成14年4月の神戸新聞に『知っていますか？兵庫県音楽療法士』という記事があり、向陽りんどう苑での様子が載っていました。その頃デイサービスのお手伝いをしていたので、興味深く読み感銘を受けました。

♪県の養成講座を受けていた頃の事

子どもが社会人になり、自分の時間が持てるようになったので申し込みました。片道電車で3時間かかるので、続けられるのか心配でしたが同じ志を持つ仲間がいることで頑張ることが出来ました。

♪ある1日のスケジュール

午前6時起床、ウォーキングに出かけます。家事を午前中に済ませ2時から3時までセッションを行い、4時からピアノのレッスンに向かいます。7時半帰宅、11時就寝です。

♪現場で思い出に残る場面

合唱がとても上手く歌えた時「ウミネコ合唱団という名前でデビューしよう！」と一人が大声を上げると、全員が大拍手で盛り上がり、達成感を共有した時のことが忘れられません。

♪セッションで大切にしていること

田舎の高齢者施設なので、町の行事や風習などを話題に取り上げ、少しでも話に参加してもらえるよう心がけています。

セラピスト　豊浦　由美子 さん（大阪市住吉区在住）

珍しい楽器を集めることが好きで、もうすぐお母さんになる豊浦由美子さん。大学では打楽器を専攻されていて、得意分野を取り入れた、こだわりのセッションを展開しています。

♪音楽療法に出会ったきっかけ

高校の友人が「音楽療法士になりたい。」と言っていた言葉がずっと頭のどこかにありました。大学院修了後、再び大学の音楽療法コースで学ぶことも考えましたが、まだ一度も勉強したことのない社会福祉の世界で働いてみたいと思い、障害者福祉事業所を運営する社会福祉法人に就職。4年経った頃、兵庫県音楽療法士養成講座のことを知り「これしかない！」と思いました。職場の理解を得て仕事と受講を両立させ頑張りました。

♪自分の魅力

体力（腕っぷし）に自信があります。職場での出来事～ポクシングライセンス所持者の男性職員が溝掃除の際、溝蓋が持ち上がらず四苦八苦していました。私が持ち上げると、一瞬で持ち上がりました（笑）。

♪セッションで大切にしていること

打楽器が専門であるがゆえに、打楽器を用いた即興やマリンバを使用することがよくあります。自分が楽器を使用する際には、打楽器の鳴らし方や音色にこだわりを持っています。また、コンサート用の本格的打楽器も揃えているので、それらの楽器を使用することによって、対象者の皆さんに本物の音色を感じてもらうようにしています。

「気の合う友人とアンサンブルを楽しむのが好き。」と言う豊浦さんから「打楽器を購入する際は必ず音色を確かめ、使えるか使えないか見極めをしてください。」とアドバイスがありました。

つながる♪ ♪ひろがる

発会から現在まで、当会は多くの皆様と音楽で「つながる」ことができました。今後も更に音楽療法の“音の輪”“音の和”が「ひろがる」ように、日々の活動を頑張りたいと思います。

このコーナーでは、私たちと音楽でつながって下さった皆様にメッセージを頂きます。第一回目は発会当初から、当会による音楽療法の要素を取り入れたコンサートを主催して下さり、音楽療法の普及発展にご協力頂いている、神戸介護老人保健施設協会の有本雅子会長から温かいお言葉を頂きました。

音楽への思い

神戸介護老人保健施設協会 会長　有　本　雅　子

コスモス苑での訪問コンサート

この度は兵庫県音楽療法士会が法人設立されました事を心からお祝い申し上げます。音楽療法士会とは、前会長で向陽りんどう苑の山口陽雄先生（医療法人社団向陽会向陽病院及び社会福祉法人向陽福祉会理事長）の後任として会長を務めさせて頂くことにより御縁が深まりました。

山口先生にお力添えを頂きながら、多数の音楽療法士の方々の御出演による神戸ポートピアホテルでのコンサートを数年間開催させて頂きました。その後は、施設から外出が困難な方の為に各施設への訪問コンサートとして音楽療法士の方が出向いて頂き現在に至っており、ご利用者様から大変喜んで頂いております。今後も引き続き訪問コンサートをお願い致したいと思っております。

音楽は心の友、心のふるさと、愛の言葉。1日の生活の中で音楽は心に響くビタミン剤の様に精神の調整をしてくれます。

父が京都の日本画家で幼少時代から美を意識する環境で育ちました。中庭に咲いた一輪の花を床に飾り、冬景色の白色、葉の緑色、紅色のさざんかの花びらの余りの美しさに感動したものです。最近よく言われています視覚から入る色により心が癒されるカラー療法と共に聴覚から入る音楽により安定した精神状況をもたらし、時には全身の血液の流れが変わる思いを覚える事がある程心豊かに幻想の世界へと引き込んでしまう音楽の力に感銘を受けます。

今後も神戸介護老人保健施設協会も音楽療法士会さまの活動に御支援させて頂く志ですので会員の皆様が一丸となられて益々のご活躍とご発展を祈念致しまして、私たちの心に輝きをもたらす音楽と音楽療法士会の皆様に花束を贈らせていただきます。

音楽療法定着促進事業について

音楽療法の定着促進事業について、当会会員の井上恭子コーディネーターに尋ねてみました。

Q1.音楽療法定着促進事業とはどのようなものですか?

A.兵庫県下に、音楽療法の定着を促すために、県より補助を受けて、医療・福祉・教育施設に対し、音楽療法実施経費の一部を補助する制度のことです。

Q2.どのような施設で行われているのですか。

A.兵庫県下の医療・福祉・教育等の施設です。例えば、福祉分野の高齢者施設では、デイサービス、デイケアサービス、特養、有料老人ホーム等、障がい者施設では、児童デイサービス、障がい者支援施設、救護施設等、で行われています。医療分野では、精神科病院、療養型病院、ホスピス等、教育分野では、障がい児支援学級、幼稚園支援学級等です。

Q3.補助の内容は、どのようなものですか?

A.施設から音楽療法士に支払われる謝金1回あたり5,000円の1/2（2,500円）と、一部地域への交通費補助があります。

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	合計
高齢者施設	126	55	36	38	19	31	13	10	12	5	345
障がい者施設	54	20	14	4	3	14	11	12	4	4	140
病院	3	1	3	1	0	2	1	0	0	3	14
合計	183	76	53	43	22	47	25	22	16	12	499

平成18～23年度補助を受けて音楽療法を実施した施設数

Q4.補助の対象期間はどれくらいですか?

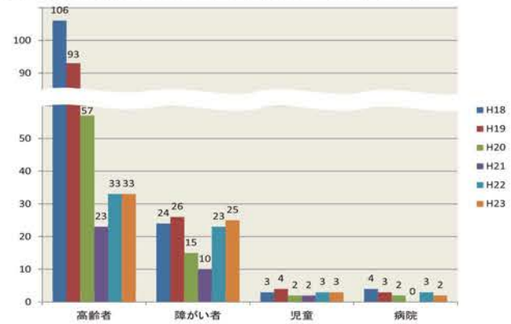
A.概ね週1回(月2回以上)、3ヶ月から年度を超えない1年間(最高40回)、6回から40回までです。

Q5.音楽療法を行った施設の感想は?

A.高齢者施設では、“表情が生き生きしてこられ、笑顔が増えた。”“控えめな方も積極的に参加され歌うようになった。”“意欲が見られ、モチベーションが上がる様子がみられた。”等、また障害者施設では、“通所の利用者様が落ち着いて過ごせるようになった。”“日常生活では見られない表情や意欲がみられるようになった。”“音楽を聴くだけでなく、楽器演奏など身体全体で音楽を楽しむことができ、ストレス発散となっている”“生活の中で張り合いの持てる時間”等の感想をいただきました。

Q6.コーディネーターとしてひとこと

A.まだ音楽療法にふれる機会がなく取り入れていない施設にも発信し、より有効な音楽療法の提供と普及を目指し、それぞれに違う施設のニーズと療法士をマッチングさせていきたいと思います。補助制度について、ご質問・ご相談ございましたら、ご連絡をお願いいたします。お待ちしております。



年度別施設数推移

楽器紹介 & 音楽の豆知識

♪楽器紹介：ジャンベ

ジャンベは西アフリカ一帯（ギニア・セネガルなど）で伝統的に演奏されている深胴の片面太鼓である。かつて西アフリカに栄えたマリ帝国時代にマンディンゴと呼ばれる文化圏で、主に日常生活や祭儀で演奏されてきた。英語ではジンベ、ジェンベとも呼ばれる。

木をくりぬいて作られており、主に山羊の皮が使われる。バチを使わず素手で叩く、叩く位置と叩く手の形により、数種の異なる音を出し分けることが可能である。ストラップを用いて肩にかけ、立って演奏する場合と、床に置き全体をやや斜めにし鼓面の反対の部分が開くようにし、座った状態で演奏する場合とがある。

この楽器を世界に紹介した功労者として、ギニア出身のママディ・ケイタが有名である。ママディは世界各地にジャンベと西アフリカの伝統音楽を紹介する学校を設立し、多くのジャンベプレイヤーを育成した。ちなみに彼のドキュメンタリー映画が発表された時のタイトルは、「ジャンベフォラ」と日本語表記され、それ以来日本では「ジェンベ」が「ジャンベ」と言われるようになったという説がある。正式名は「ジェンベ」。

～「ウィキペディア」より引用～

♪歌舞伎から生まれた日常語

「絶景かな、絶景かな」・・・眺望のきく高台に立ち裾野に広がる雄大な景色を見て、こんなせりふが口をついて出たことはありませんか？

実はこれ、「桜門五三桐」という歌舞伎の演目で、かの大盗賊石川五右衛門が南禅寺山門の上から、春の眺めの素晴らしさを語ったせりふなのです。他にも歌舞伎から生まれた日常語を少し紹介します。

【十八番】「おはこ」と読みます。江戸歌舞伎の開祖・市川団十郎家では、七代目の時に代々家に伝わる得意芸を十八選定しました。これが「十八番」です。そして、それらの演目は紙に書かれ箱の中に大切に保管されました。それで「おはこ」と呼ぶようになったのです。

【二枚目】芝居小屋の前には、出演する役者の名前を書いた看板が並べられました。一枚目は座頭格の立役者、二枚目は白塗のやさ男でした。ここから、イイ男を指して二枚目というようになったのです。ちなみに、三枚目は道化役者でした。

ハ木正一編著「音楽授業を20倍楽しくするお話のネタ」より

兵庫県音楽療法士会事務所は《兵庫県福祉センター6F》です

H24年度理事紹介
上段：事務局長／大串智恵、企画部長／村上由加、財政部長／細見頼子、広報部長／梅谷浩子
下段：副理事長／志賀ミサ、理事長／松嶋聡子、副理事長／宮本裕美

JR灘駅・阪急王子公園駅下車　徒歩約10分
神戸市バス（90・92系統）上筒井1丁目バス停下車すぐ

兵庫県音楽療法士会では 以下のURLのホームページを運営しております。音楽療法に関することはもちろんのこと、会の活動内容や公開講座の案内などをご覧いただくことができます。他に兵庫県の名所を音楽と共にお伝えするページもあります。今後は音楽療法で使う楽器の紹介もしたいと思っております。是非ホームページにも遊びにいらしてください。http://hmta2.net/ (IT担当 今野)

〒651－0062　神戸市中央区坂口通2丁目1-1　兵庫県福祉センター6F
TEL・FAX（078）261－9601　E-mail：hmta_02@ybb.ne.jp

編集後記

今回、編集に関わらせて頂き、世の中にあまた職業がある中で、なぜ音楽療法士になろうと思ったのか自問する機会を得ました。幼いころから音楽が好きであった事は言うまでもありませんが、成長する過程で出合う壁を乗り越えるのに私の背中を押してくれたのが音楽でした。まさに音楽に励まされ慰められた半生であったと思います。これからも音楽の素晴らしさを知る仲間たちと手を携えて、笑顔の輪を広げていきたいです。

最後に、この広報誌の発行にお力添えを下さったすべての皆様に心よりお礼申し上げます。（広報部 梅谷）